

# ことばの結びつき活動における児童の気づき

## 「have 研究」の試み

竹田里香(立命館大学)

北野ゆき (守口市立錦小学校)

渡辺彰子 (立命館大学)

大和田和治 (立命館大学)

キーワード：ことばへの気づき、語彙、言語活動、多義語、振り返り

### 1. 研究の目的

本研究の目的は、小学校外国語の授業で、児童は多義語の動詞 **have** の例文から意味を推測する「**have** 研究」と称したことばの結びつき活動によりどのような気づきを得るかを明らかにすることである。この活動をとおして、新しい単語に出会ったときに、まず一緒に使われている単語から意味を推測するなど、児童の思考力・判断力を養うことができると考えた。リサーチクエスチョンは、①最初にいろいろな例文に触れる学習をとおして、動詞の語義が複数あることに気づくことができるか、②意味は一緒に使われる単語である程度決まるということに気づくことができるか、③和訳をすることで、日英の表現方法の違いに気づくことができるか、である。

### 2. 研究の方法

大阪の小中一貫校 6 年生 2 クラス (計 70 名) を対象に 50 分の授業内で一回のみ実施した。内容は、**have** の例文が英語で言えるかを問うプレクイズをまず実施した。次に、導入として日本語の知識を利用し、日本語での表現が英語でどう表現されるかの比較 (例、**wear**、飲む) をとおして、メタ言語能力を活性化させた。その後、班活動で「**have**」の語義を探求する活動を行い、最後に振り返りを書かせた。翌日ポストクイズを実施した。

### 3. 結果

プレとポストのクイズからは、5 つの語義についてのみ有意差が認められた。振り返りシートには、**have** にはたくさんの語義があること、日本語と英語は一対一対応ではないこと、意味を予測することが大切であること、**have** 以外の単語でもやってみよう等の記述が見られた。

### 4. 結論

プレ・ポストクイズの結果からは今回の活動の学習効果は限定的であった。しかしながら、振り返りからは、児童が、英語は一語一義ではないということや、ことばの結びつきの重要性に気づいていたことが明らかになった。

### 参考文献

大津由紀雄・窪園晴夫(2008). ことばの力を育む. 慶応義塾大学出版会